

ホットな企画のチャンス到来！

< 学校での鑑賞教室の実態調査 >  
昨年5年ぶりに文化庁が発表。

「実態調査」によると鑑賞教室が減少しており、中でも“自校単独開催”の減少比率が高いとのこと。非実施の理由としては予算の問題、授業時間との兼ね合い等、特に小規模校ほど「予算がない」の割合が増える。

“自校単独開催”、特に小規模校では昨今の不況も反映してより厳しい状況が続いていると感じる、実際に実施してその現実に触れることも多く、予算面で希望の企画が確保出来ずに、団体との交渉・調整に苦勞する姿に接し、私たちも希望に添うように条件を整えるのに四苦八苦する。

< 下からの活性化を >

『本物の舞台芸術体験事業』など国の文化政策の企画は定着しつつある一方で“自校単独開催”が減って、下からの活性化が先細りになっていることに、もっと注視すべきと感じた。

学校ごとに先生方が鑑賞行事の必要を感じ意見を交換しあい、自由な発想での取り組みは大切だと思う。現状の中で実施を続けるのは熱意のいることでもあり、困難な条件をクリアして実現出来た鑑賞教室では子供たちも幸せです。

予算面では、他校との呼びかけで午前と午後に移動可能な学校での実施や、PTAとの共催、鑑賞予算のプール化等の試行は続けて欲しいものである。適正価格を維持することも良い作品をつくる大切な要素。

< 小規模 = ホットな鑑賞会 >

私たちとしても現状をマイナスに捉えるのではなく、レクチャーコンサート、体験プログラムとしての秀逸な企画ができるチャンスと捉えたい。

大規模なものでなくてもアーティストとしての卓越した技量と生徒にメッセージを持った出演者を選び理解を求めればホットな鑑賞会になる。

大規模校では全員が間近に舞台を見ることが難しいし、演奏者も観客の反応や表情を捉えにくいですが、少数であれば生徒・児童にクオリティーの高いものを伝えることが出来る。

低学年（小学校）には時間的に短くてもエッセンスのこもった舞台を！高学年には時間をかけて生徒の質問にも答えながらの二部構成も可能。

テーマを的確にすることによって演奏・パフォーマンスの背景にある文化・歴史を学び知ることにより内容を深めることが出来る。

中国楽器では『中国琵琶とシルクロード』、リコーダー演奏では『古楽器で巡るヨーロッパ』、狂言師による『笑いの芸術と身体表現』等々。

小規模校の担当者さま、一緒に貴校ならではの“鑑賞教室”を創りましょう！